第10号の記念によせる言葉

学長　妻木徳一

本研究報告の人文・社会科学の部第1号が昭和28年に発刊されて以来，毎年号を重ねてこのたび第10号を刊行することになった。この10年間に幾多の傑出した業績を発表された著者らに対し深甚な敬意を表し，第10号の刊行を祝福する次第である。

本学は工業単科大学であるために，ややもすれば専門の工学の諸学課に重点がおかれて，大学としての一般教育がおろそかにされるおそれがないとはいえない。このような意味で人文・社会・体育の学課を受持たれる諸教官は大学教育を完全にするための重い任務をもっておられる。これらの方々がこの重責を荷ないながら，自己の研究成果を世に公にされるのが本研究報告である。

われわれ学問に志す者が仕事をするために望ましいことは，静かな場所と時間とを得ることが一つである。もう一つは学問研究の雰囲気の中に浸ることであって，学会を作って同志相会し，発表し，議論するのも学問の雰囲気を醸成することが一つの目的である。

九州工業大学は，北九州の工業地帯にありながら，そのキャンパスはまことに閑静なところに位置し，前記の望ましい条件の一つは満たされているといってもよいのである。ところが本学の施設図書はなお整っていない上に，本研究論文をのせられる人文，社会，体育の教官方は単科大学の一般教育担当教官の定員にしばられて，その人数極めて少なく，一つの専門学科について1人ないし4人位のものである。従って学問的雰囲気を盛りあげるには甚だ不利な状態に置かれている。それにもかかわらず，この研究報告が昭和二十八年以来一度も欠くることなく，このたび第10号を刊行するはこびとなったことは，まことに喜ばしいことで，これが益々着実に発展し，ささやかな存在ながらも空の一角にひときわかがやく星のように学界に異彩を放つことを祈ってやまない。